

■ デジタルものづくり対応支援事業 2023年度デジタル人材育成トライアル事業報告会（会員限定）

ものづくり中小企業が、次世代自動車のビジネスを獲得するためには、「デジタルものづくり」に取り組む必要があります。しかし、「デジタルものづくり」の導入及び活用には、「ヒト（人材）、モノ（設備・装置）、カネ（資金）、情報」が必要であり、中小企業では、特に不足しているデジタル人材の確保が課題となっています。

そこで、次世代自動車センター浜松では、2023年度に、ものづくり中小企業のデジタル人材を確保する手段として、ものづくりを知っている技術者の中からデジタル人材を育成するためのトライアル事業として、ものづくり中小企業がデジタル化に取り組むためのテーマを「固有技術のデジタル化」とし、スズキ株式会社（生産技術部門）様のご協力をいただきスマートファクトリーDXの取り組みの中から、「固有技術のデジタル化」を目的にテーマを絞り、「AIセンサを使った品質検査」に関する研修会と参加企業の現場における実地研修を内容とする支援プログラムを実施しました。

今回、トライアル事業の結果を確認し参加企業の皆様において共有するため、当センターの望月センター長から取組状況の報告、参加企業の皆様の結果報告、スズキ株式会社様から講評をいただく「市販AIセンサを使った品質検査 現場トライアル報告会」を開催しました。

- 日時：令和6年5月9日（木）14時～15時30分
- 場所：（公財）浜松地域イノベーション推進機構 セミナー室
- 参加者：5社／11名

<開会>



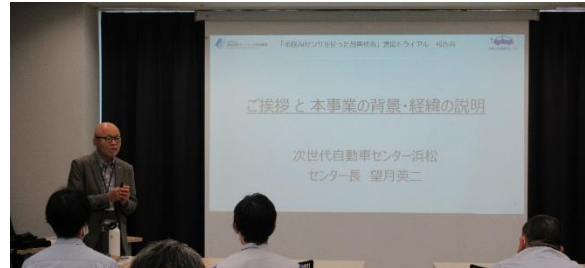
<センターからの報告>



<㈱三幸製作所 様>



<挨拶>



<㈱コーリツ 様>



<浜名部品工業㈱ 様>



<講評：スズキ(株) 様>



<まとめ>



【参加者の声】

- ・ トライアル結果の内容から、実際に活用していく場合に、検討する必要がある事項が分かった。
- ・ 設置・設定の容易さや、汎用性から、様々な箇所への取り付けが可能だということが分かり、とても有益な機会となった。
- ・ 様々な設置位置でトライを行ない、製品を置く位置による検査精度の違いがわかった。
- ・ 検査対象の部品の大きさの違いや検査内容による得意・不得意などがよく分かり、実用する上での企業な情報。知見が得られた。
- ・ 社内からは、品質検査の際に「人の目」だけでなく、このような設備があれば幅広く活用出来そうだと、との感想があった。
- ・ AIセンサーの操作は簡単だが、設定には専門の知識と技術が必要だと感じた。
- ・ 現場の作業者による製品検査の簡略化、効率化を目指す場合に、どのような使い方をしたら有効か、どんな対象を選ぶと難しいか、などが理解できた。